
2013 年度（平成 25 年度）

事業計画書

平成 25 年 3 月 22 日

学校法人 玉手山学園

I. 事業計画策定にあたって

関西医療技術専門学校が大学、短期大学に発展的に移行、閉校

今春も多くの卒業生を送り出すことができました。創設以来の卒業生総数はおかげさまで6万人を超え、その存在は学園71年の教育活動の歩みそのもの、頼もしく大きな力であり学園の誇りです。昨年の70周年記念祝賀会に集まられた数名の学園1期生の元気なご様子は、私たちに新たな活力を与えてくれました。第1期(2008～2012)学園中長期計画も修了し、大学に保健医療学部リハビリテーション学科、短期大学に医療秘書学科を開設し、専門学校4学科は大学・短大への発展的移行を果たし、2013年3月に歴史的使命を全うし閉校いたしました。今日までの学園教職員のみなさま、そして専門学校をご支援いただいた多くの方々のご尽力・ご支援に感謝いたします。

第2期(2013～2017) 学園中長期計画の始動 誠実に、そして創意工夫を

2013年から第2期学園中長期計画がスタートします。学園の「経営理念とビジョン」の具現化に向け、全教職員が実践すべきことを掲げています。特別なことが記載されているわけではありません、むしろ“**For the students**”を視座に、学生・生徒・園児たちに伸びてもらうための基本が示されています。まず誠実に教育にあたる、そして“**どうしたら**”と常に創意工夫を凝らしていくことが肝要です。

高等学校にたくさんの入学者 誠実、熱意が評価される

2013年4月、関西福祉科学大学高等学校は例年を大きく上回る数の新入生を迎え入れます。高等学校教職員の誠実で熱意ある平素の教育、そして生徒募集活動が評価され、“伝わり”始めた証左であると思います。喜びとともに大きな緊張感、責任感を感じます。一人でも多くの生徒、保護者に「入学してよかった。」の満足感をもたらしたい。そのために最も重要なのは一部の卓越した“**匠の技**”ではなく、一人ひとりの教職員の「**誠実・熱意**」と「**創意工夫**」です。これは学園すべての所属に共通することです。全教職員が自信を持って言わねばなりません。「私は一生懸命考えながら、誠実に教育活動、職務にあたっています」と。

平成25年度の学園事業計画を策定しました。教職員が各自の役割を自覚し、教育に邁進されるようお願いします。

学校法人 玉手山学園
理事長 江端 源治

建学の精神「感恩」

人はみな有形無形の数々の恩恵を享受し 今の自分がある
この偉大なはからいに目覚め 深い感動と感謝の念から発する豊かな心と情熱をもって
人の幸せを願い行動するとき われわれは社会に貢献することができる
～「ありがとう」に出会い気づき 感動 感謝の行動から
また新しい「ありがとう」が生み出されていく～

学園の使命

建学の精神「感恩」を体し 人間の絆に目覚め 高い志をもち社会に貢献し得る人を育成し 豊かな社会の構築に寄与する

経営方針

1. 学生 生徒 園児のもてる力をひきだし 次代を担う有為な人を育成する
2. 教育人としての自覚のもと 自己の能力および人格の向上に努め その使命 責務を誠実に遂行し 人類の未来を拓く「知」の継承 伝達 創造 発展に寄与する
3. 学園の各校園は それぞれの教育理念 目的のもと具体的な教育目標を掲げ 常に改革の意識をもって 創意工夫を重ね 総力を結集する
4. 継続 改革 発展を支える確かな組織力と健全な財政基盤の確立に努める

ビジョン

【玉手山学園がめざすもの】

1. 豊かな心 高い志の育成
～笑顔 あいさつ 優しさを大切にし
目を輝かせ夢を語り合う学園～
2. 学園教育力の向上
 - ・教育の質向上（教育力・研究力の更なる向上）
 - ・規模拡大
 - ・4 校園体制堅持
 - ・健全収支
3. 地域貢献 社会に必要とされ愛される学園
4. 教育環境（安心 快適 ECO）充実
5. 学園総合力の向上と社会に誇れる学園ブランドの確立
 - ・各校園の相互尊重 信頼 扶助（学園ファミリー意識）

Ⅱ. 法人の概要

1. 設置する学校

学校名	学部・学科・専攻等	開設年度	
関西福祉科学大学	社会福祉学研究科	臨床福祉学専攻（博士前期課程）	平成13年
		臨床福祉学専攻（博士後期課程）	平成15年
		心理臨床学専攻（修士課程）	平成15年
	社会福祉学部	社会福祉学科	平成9年
		臨床心理学科	平成15年
	健康福祉学部	健康科学科	平成15年
		福祉栄養学科	平成15年
保健医療学部	リハビリテーション学科 理学療法学専攻 作業療法学専攻	平成23年	
	特別支援教育専攻科	平成22年	
関西女子短期大学	保育科	昭和40年	
	保健科	昭和42年	
	医療秘書学科	平成23年	
	歯科衛生学科	平成17年	
	医療秘書学専攻科	平成23年	
関西福祉科学大学高等学校	全日制課程普通科	昭和17年	
関西女子短期大学附属幼稚園		昭和40年	

2. 学生・生徒・園児数

< 関西福祉科学大学 >

(単位:名)

研究科・学部・学科・専攻等	入学定員	編入学定員 (3年次)	収容定員	在籍者数(現員) H25.4.1				H24年度 卒業生数	
				1年生	2年生	3年生	4年生		
社会福祉学研究科	臨床福祉学専攻(博士前期課程)	20	0	40	2	5		7	
	臨床福祉学専攻(博士後期課程)	3	0	9	2	4	4	1	
	心理臨床学専攻(修士課程)	10	0	20	14	9		11	
大学院 計	33	0	69	18	18	4		19	
				40					
社会福祉学部	社会福祉学科	180	40	800	182	178	180	212	191
	臨床心理学科	70	20	320	85	54	57	89	101
計	250	60	1,120	267	232	237	301	292	
				1,037					
健康福祉学部	健康科学科	80	10	340	99	78	76	68	65
	福祉栄養学科	80	5	330	87	85	82	87	67
計	160	15	670	186	163	158	155	132	
				662					
保健医療学部	リハビリテーション学科	120	0	480	138	133	107	—	—
	理学療法学専攻	80	0	320	88	86	75	—	—
	作業療法学専攻	40	0	160	50	47	32	—	—
計	120	0	480	138	133	107	—	—	
				378					
大学 計	530	75	2,270	2,077				424	
特別支援教育専攻科	40	0	40	7				3	

※社会福祉学科、臨床心理学科、健康科学科は平成25年4月より入学定員変更

社会福祉学科 240名→180名(実質収容定員980名)、臨床心理学科 100名→70名(実質収容定員410名)、健康科学科 90名→80名(実質収容定員370名)

※保健医療学部は平成23年4月開設(実質収容定員360名)

※平成25年度 実質収容定員 大学計は2,450名

< 関西女子短期大学 >

(単位：名)

学科・専攻科	入学定員	収容定員	在籍者数(現員) H25.4.1			H24年度 卒業生数
			1年生	2年生	3年生	
保育科	100	200	99	97		66
保健科	40	80	44	46		38
歯科衛生学科	100	300	117	100	105	85
医療秘書学科	60	120	76	52		63
短大 計	300	700	336	295	105	252
			736			
医療秘書学専攻科	10	10	3			1

< 関西福祉科学大学高等学校 >

(単位：名)

学校名	入学定員	収容定員	在籍者数(現員) H25.4.1			H24年度 卒業生数
			1年生	2年生	3年生	
関西福祉科学大学高等学校	250	730	379	224	200	163
高校 計	250	730	803			163

※入学定員は公募入学定員を表記、H23・H24年度入学生の公募入学定員は240名(学則上の入学定員470名)

< 関西女子短期大学附属幼稚園 >

(単位：名)

学校名	入学定員	収容定員	在園児数(現員) H25.4.1				H24年度 卒園児数
			最年少	年少	年中	年長	
関西女子短期大学附属幼稚園	—	495	0	114	126	131	130
幼稚園 計	—	495	371				130

※最年少は満3歳児クラスを示す

3. 専任教職員数

(単位：名)

学校名	H25年度現員 (H25.4.1)		計
	教員	職員	
関西福祉科学大学	111	53	164
関西女子短期大学	35	15	50
関西福祉科学大学高等学校	51	5	56
関西女子短期大学附属幼稚園	18	0	18
法人	0	1	1
法人本部	0	19	19
合計	215	93	308

[専任教員内訳] (H25.4.1)

関西福祉科学大学

(単位：名)

学部・学科		大学設置基準上 必要な専任教員数		教授		准教授		講師		助教		助手		計	
		専任教員	うち教授	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
社会福祉学部	社会福祉学科	14	7	9	3	3	7	3	5	0	2	0	0	15	17
	臨床心理学科	10	5	6	3	1	5	0	1	0	0	0	0	7	9
健康福祉学部	健康科学科	10	5	4	1	2	3	1	4	0	0	0	0	7	8
	福祉栄養学科	10	5	8	1	2	2	0	2	0	0	0	0	10	5
保健医療学部	リハビリテーション学科	15	8	7	4	7	3	2	2	2	4	0	0	18	13
大学全体の収容定員に応じ定める専任教員数		24	12												
合計		83	42	34	12	15	20	6	14	2	6	0	0	57	52

※心理・教育相談センター教員2名除く

関西女子短期大学

(単位：名)

学科	短大設置基準上 必要な専任教員数		教授		准教授		講師		助教		助手		計	
	専任教員	うち教授	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
保育科	8	3	2	1	1	2	0	3	0	0	0	0	3	6
保健科	4	2	3	0	0	2	0	1	0	0	0	0	3	3
歯科衛生学科	6	2	2	4	0	1	0	2	0	0	0	3	2	10
医療秘書学科	4	2	1	2	0	1	0	1	0	3	0	0	1	7
短期大学全体の収容定員に応じ定める専任教員数	5	2												
合計	27	11	8	7	1	6	0	7	0	3	0	3	9	26

関西福祉科学大学高等学校

関西女子短期大学附属幼稚園

(単位：名)

学校名	専任教員数		計
	男	女	
関西福祉科学大学高等学校	36	15	51
関西女子短期大学附属幼稚園	3	15	18

Ⅲ. 事業計画の概要（重点施策）

関西福祉科学大学

1. 「夢、笑顔、あいさつ、優しさ」を大切にし、豊かな学生生活を創る
～生まれようとする芽を大切にする風土の醸成～
・日々の授業・業務が基本、創意工夫を凝らし様々な「機会」提供
2. 学生修学力の向上
3. 外部資金獲得のためのチャレンジ（科学研究費他&学術論文執筆促進）
4. 入学定員の確保
5. 国家試験、各種資格試験等の合格支援
6. 関西福祉科学大学附属総合リハビリテーション診療所の開設（2013年9月）と運営推進
7. 地域交流機能の充実

関西女子短期大学

1. ミッション（役割、使命）の明確化と広報活動の充実
2. 短大ブランドの確立
3. キャリアガイダンス（キャリア教育、職業教育）の視点からの教育課程の再構築と夢ノートの充実
4. 就職活動支援と同窓生活動支援の活性化ならびに生涯学習の視点に立ったキャリア形成支援の充実
5. 教育情報公開内容の一層の充実
6. 学生満足度の上昇をめざしたPDCAサイクルの実質化
7. 学園内学校園との連携体制の構築
8. 創立50周年記念事業計画の策定

関西福祉科学大学高等学校

1. 教育改革の推進
 - (1) 教職員の意識改革（全校生徒810名に対応できる）
 - (2) 4コース制の推進と実践
 - (3) 高大・高短連携の推進と強化
2. 教育力の向上
 - (1) 授業アンケートの実施と活用
 - (2) 高校生活満足度調査の実施と活用
 - (3) 教員研修の実施
3. 生徒の基本的な生活習慣や学習の習慣について重点指導
4. 学校自己点検評価の実施
5. 魅力ある学校行事の検討

関西女子短期大学附属幼稚園

1. 園児増を目指して魅力ある幼稚園の構築
2. 保育環境、施設、設備の充実
3. 教員の保育力の向上
4. 幼保一元化の検討且つ対応
5. 効果的な広報活動の充実
6. 創立50周年に向けての事業計画（案）作成

法人本部

1. 組織力向上への取組み
2. キャンパス将来ビジョン策定の推進
3. 建物耐震診断の実施
4. エネルギー節約推進
5. 地域イベントとの連携強化
6. 新教学組織開設構想の推進
7. 関西福祉科学大学附属総合リハビリテーション診療所の開設
8. 予算執行の最適化への取組み

IV. 財務の概要

1. 平成 25 年度予算編成の基本方針

わが学園は、建学の精神「感恩」を体し社会に貢献し得る人材を育成する。各校園はこれを全うするため、それぞれの教育目的を掲げ、その達成に総力を結集し、「教育」に邁進する。教育事業遂行の主たる財源は、自身の成長を願う学生・生徒・園児からの学納金である。彼らを伸ばし育てるため、限られた財源で最大限の教育効果をあげなければならない。平成 24 年度の学園予算編成基本方針を以下に示す。

1. 発展的継続・改革を支える財政基盤の充実と強化
部門ごとの帰属収支健全化
2. 学園中長期計画の推進、平成 25 年度学園運営目標達成
3. 教育の質・研究力の向上（教育の質、研究力向上のための投資）
4. 投資効率向上（有限の費用で大きな教育効果を）
「費用対効果」及び「事業採算の概念」
5. 施設・設備の点検・充実、学園内施設及び人材の有効活用
6. 外部資金の積極的獲得（特別補助金・各種補助金・科研費補助金等）

2. 予算の概要

(1) 資金収支計算書

(百万円)

	平成 25 年度予算	平成 24 年度予算
資金収入合計	4,736	4,513
資金支出合計	4,624	4,905
資金収支差額	112	△392

※資金収入、資金支出ともに資金内訳ベースの数値

平成 25 年度は、大学「保健医療学部」開設 3 年目であり、完成年度を迎えるまでは、収支の均衡を欠く要素を含んだ予算編成となっています。

資金収入は、厳しい学生募集環境を反映して学生・生徒・園児数減少による学納金の減少が昨年度まで続いていたが、大学・保健医療学部の学生増、高等学校の生徒増、及び補助金収入の増加もあり資金収入合計は、前年度比 223 百万円増の 4,736 百万円となりました。

資金支出は、学園全体の人件費総額抑制の成果で人件費が大きく削減されたこと、および経費削減取組みの結果、資金支出合計は前年度比 281 百万円減の 4,624 百万円となりました。

その結果、資金収支差額は 112 百万円の収入超過となりますが、資産運用支出の 743 百万円があり、次年度繰越支払資金は減少する予算編成となっています。資産運用支出には、退職給与引当特定資産及び減価償却引当特定資産への繰入支出 174 百万円、関西福祉科学大学附属総合リハビリテーション診療所開設に伴う建設関連支出及び運転資金元入金支出 214 百万円、短大校舎建設引当特定資産への繰入支出 355 百万円が含まれています。

(2) 消費収支計算書

(百万円)

	平成 25 年度予算	平成 24 年度予算
帰属収入合計 (イ)	4,777	4,515
基本金組入額	△476	△479
消費収入合計 (ロ)	4,301	4,036
消費支出合計 (ハ)	5,066	5,274
消費収支差額(ロ－ハ)	△765	△1,238
帰属収支差額(イ－ハ)	△289	△759

消費収支においても資金収支と同様の要因により、帰属収入合計は前年度比 262 百万円増の 4,777 百万円となります。今年度の基本金組入は前年度同様、短大校舎建設に伴う 2 号基本金の組入があり、前年比 3 百万円減の 476 百万円となりました。その結果、消費収入合計は前年度比 265 百万円増の 4,301 百万円となりました。

消費支出は人件費総額の抑制、経費の削減等により、前年度比 208 百万円減の 5,066 百万円となりました。

その結果、帰属収支差額の支出超過額が前年度比 470 百万円減の 289 百万円となり、消費収支差額の支出超過額は前年度比 473 百万円減の 765 百万円となりました。翌年度繰越消費収支差額は、支出超過となる予算編成となりました。

3. 主要財務指標

(%)

	H22 年度	H23 年度	H24 年度 (予算)	H25 年度 (予算)	全国平均 (H23 年度)
人件費比率	65.8	65.7	71.9	64.2	54.0
人件費依存率	79.1	84.9	92.9	84.0	74.4
教育研究経費比率	28.9	29.0	33.0	30.4	30.9
管理経費比率	11.0	10.5	11.6	11.3	8.7
帰属収支差額比率	△5.9	△5.3	△16.8	△6.1	3.4
消費収支比率	132.1	129.0	130.7	117.8	109.2
学生・生徒等納付金比率	83.2	77.4	77.4	76.4	72.7
補助金比率	11.9	14.7	15.5	18.2	12.4
減価償却費比率	9.7	10.5	10.1	9.8	11.3

(医歯科系法人を除く)

◇各比率は以下による

人件費比率	(人件費／帰属収入)
人件費依存率	(人件費／納付金)
教育研究経費比率	(教育研究経費／帰属収入)
管理経費比率	(管理経費／帰属収入)
帰属収支差額比率	(帰属収入－消費支出／帰属収入)
消費収支比率	(消費支出／消費収入)
学生・生徒等納付金比率	(納付金／帰属収入)
補助金比率	(補助金／帰属収入)
減価償却費比率	(減価償却費／消費支出)

以上